

## 道北地域の景気の基調判断を据え置きました（2012 年 8 月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、8 月 10 日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を据え置き、「厳しい状況にあるものの、一部で持ち直しの動きがみられる」としました。この基調判断は、前月に続き 3 か月連続となります。最大の需要項目である個人消費（観光を含む）は、全体として持ち直しています。大型店の売上高は、下げ止まりつつあります。自動車販売は政策効果（エコカー補助）等を背景に堅調に推移しています。観光はインバウンド客、道外客ともに持ち直しており、全体として持ち直しています。設備投資は下げ止まっています。一方、公共投資は低水準で推移しています。住宅投資は持ち直しの動きに一服感がみられています。この間、雇用情勢は、労働需給面で改善の動きが続いています。生産は強弱区々の動きとなっています。農作物の生育状況はほぼ平年並みとなっています。

わが国の景気は復興関連需要等国内需要の堅調を背景に緩やかに持ち直しつつあり、こうした動きが道外観光客の持ち直しや復興関連の新規求人の増加等のルートを通じて道北地域にも徐々に波及してきています。ただし、道北地域でウエイトの高い公共投資は低水準で推移しています。また、自動車販売の堅調を支えてきたエコカー補助の終了が近づいてきています。この間観光は、地域によって明暗の差はあるものの宿泊客数はほぼ震災前の水準に回復してきていますが、更に一段と水準を切り上げるためには、何か新しい好材料（所得環境の一段の改善、わが国景気の一段の持ち直し等）が必要になると考えられます。このように、道北地域の景気は、一部で持ち直しの動きがみられていますが、こうした動きが更に拡大していくか否かについては、予断を許さない、とみています。

以下、基調判断の背景について、やや詳しく説明します（下記に載っていない項目については、[「金融経済概況」](#)をご覧ください）。

公共投資は低水準で推移しています。公共工事請負金額をみると、6 月は稚内東中学校校舎建設工事＜7.27 億円＞や網走市麦類乾燥調製貯蔵施設増設工事＜6.33 億円＞のほかは目立った大型案件はありませんでしたが、細かい案件の積み重ねで 3 振興局とも増加し、2 か月振りに増加しました（前年比：+24.1%、2012/4～6 月+2.4%）。ただし、下図の通り、振れを均してみるため、後方 12 か月移動平均でみると、低水準横這いで推移しています。なお、最近の特徴として 2011 年度第 4 次補正予算で予算手当てされた農業体質強化基盤整備促進事業の発注が散見されるようになってきています（前払金が出る事業については下図の公共工事請負金額に含まれています）。もっともこれを含めても、全道の公共投資が新幹線関連工事の本格化もあって下げ止まっているのと比較すれば、道北地域の公共投資がやや見劣りすることは否めません。

復興関連需要の直接的波及効果はあまりみられていませんが、逆に人や建機の需給ひっ迫の悪影響は受けますので、こうした点についても注意深くフォローしていく予定です。

【道北地域の公共工事請負金額推移（後方 12 か月移動平均）】

百万円



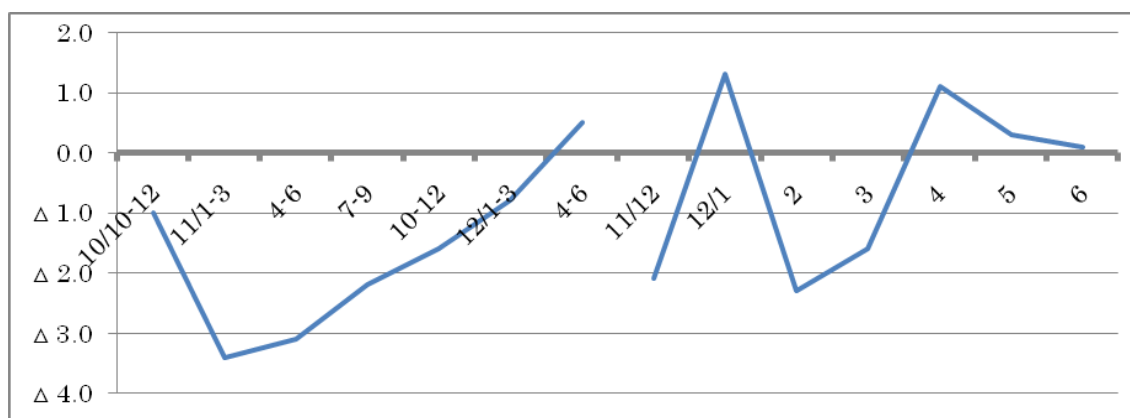
次に、消費・観光です。

- ここで言う観光には、消費に計上されるもの（道北地域に住む人の観光関連支出）のほか、移輸出に計上されるもの（道外、海外等から当地を訪れた観光客が当地で使った観光関連支出）を含んでいます。

まず、大型店売上高は、下げ止まりつつあります。6月については微増となり、3か月連続で前年を上回りました。6月は月央に一時雨がちとなったものの総じてみれば好天に恵まれ、客足がますますであったほか、一部スーパーにおける安売り戦略が奏功し、食料品を中心に底堅く推移しました。この間、家電製品は薄型TVの地上波停波前の駆け込み需要の反動から減少の動きが続いています。単月ではかなりぎくしゃくした動きとなりますが、単月の振れを均すため、四半期（下図左）の推移をみると、震災があった2011年1-3月をボトムにマイナス幅は縮小し、4～6月については幾分プラスとなりました。ただし、所得環境が引続き厳しい状況にあるため、このまま順調にプラス幅が拡大していくと予想する向きは少ないようです。現在、北海道・道北地域におけるスーパーでは、消費者の節約志向の強まりに対応し、安売りを主体とした店舗形態への変更や商品の値下げ等、生き残りをかけた価格競争が激化しているところです。

【道北地域の大型店売上高推移】

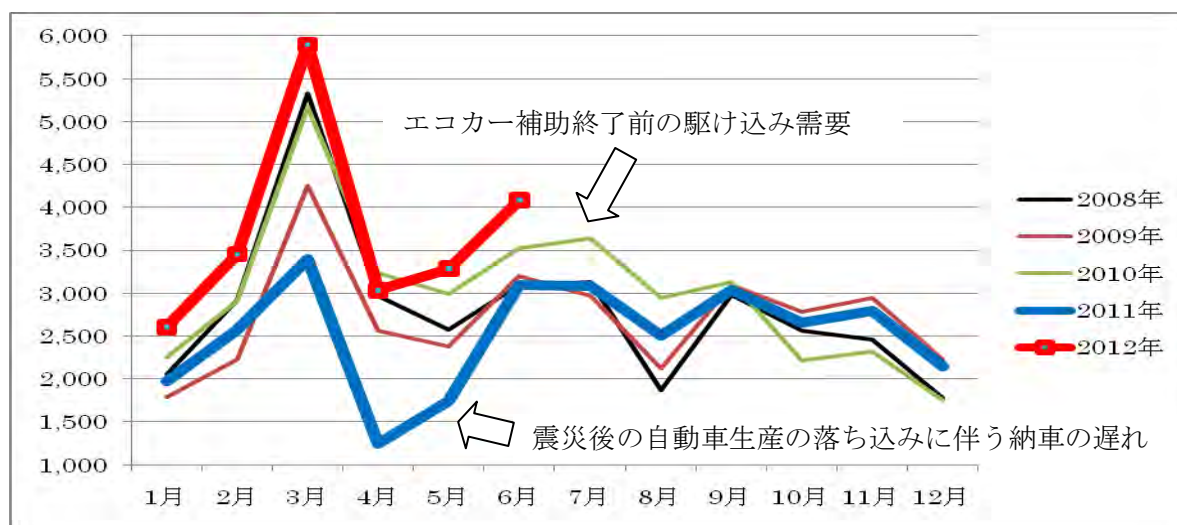
前年比・%



次に、自動車販売は引続き堅調に推移しています。2012年6月の新車登録台数は、政策効果（エコカー補助）等から、引続き大幅に増加しました（前年比：+31.7%、前々年比：+15.8%）。単純に前年比だけをみると、5月の+88.1%から6月は+31.7%に伸び率は低下していますが、これは下図で明かなように、前年5月まで自動車生産の大幅減少に伴う供給制約から自動車販売が大幅に減少した後、6月以降供給制約の解消に伴い自動車販売が急ピッチで回復したことによるものです。エコカー補助終了前の駆け込み需要が本格化し、自動車販売が極めて堅調であった前々年の水準をも15%強上回っており、実勢では引続き堅調な動きが続いていると評価しています。車種別には、普通乗用車うち除軽が+25.2%、軽が+59.1%と、軽自動車の伸び率がひときわ高くなっています。なお、エコカー補助は予算がなくなると終了します。終了時期は販売状況次第であり不確かですが、8月中にも補助が終了することが予想されており、その後の反動減の大きさに注目しています（①自動車販売が堅調であるといっても、エコカー補助終了の時期が当初予想く「早ければ7月末」>より後ずれするなど、駆け込み需要は想定していた程大きくないこと、②エコカー補助前から低燃費車は人気であり、低燃費を訴求した新車投入効果もあってこの人気は当面続くと予想されること、から「2010年の時程大きくないのではないか」と見る向きもありますが、定かではありません）。

【道北地域の新車登録台数推移】

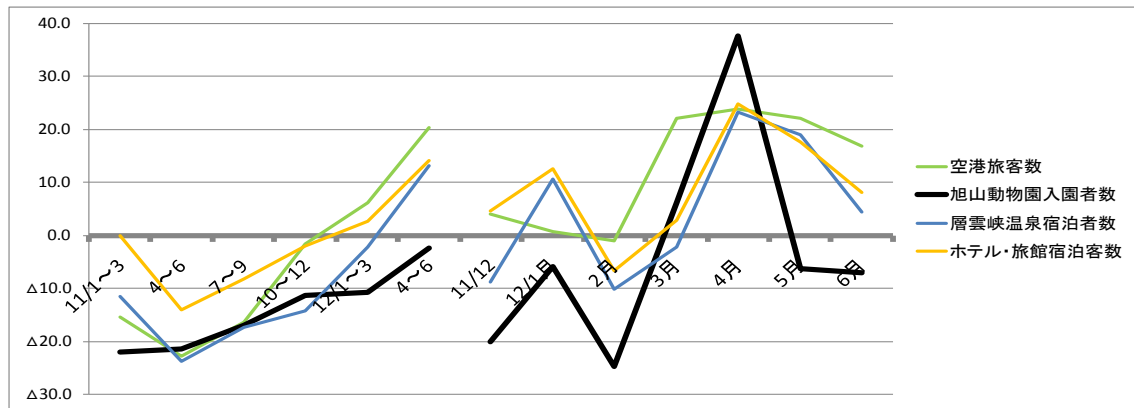
台



最後に、観光です。観光は全体として持ち直しています。月次でみるとかなりぎくしゃくした動きとなりますが（春節時期の相異<今年の春節は1月、昨年は2月>から1月高い伸びの後、2月は低め。4月は旭山動物園の開園日数の相異<今年：11日、昨年：9日>から高い伸び）、四半期でみると、2011年4-6月を底に、次第に持ち直してきています。

# 【道北地域の観光動向】

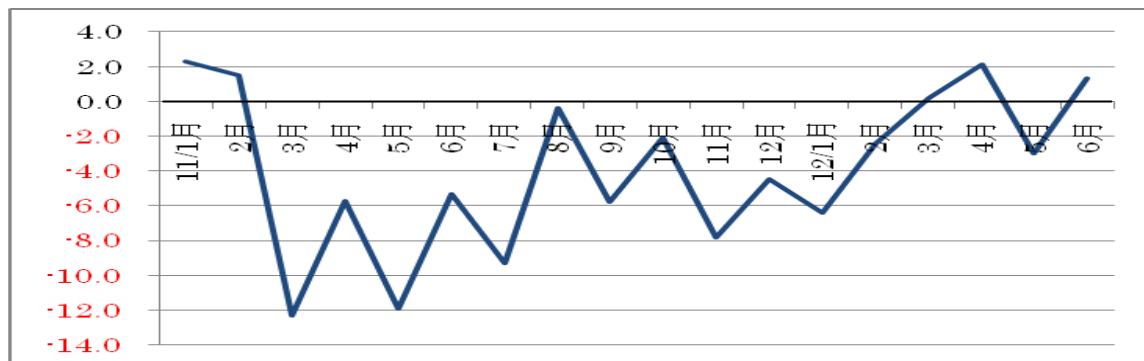
前年比・%



この間、尖閣諸島問題（2010年9月）や震災（2011年3月）の影響を取り除いた実勢を判断するために、旭川地区における宿泊施設の客室稼働率の前々年差の推移をみると、下図の通り、6月は2か月振りにプラスとなりました。月による振れはありますが、3月以降は5月を除きプラスで推移するなど、旭川地区における宿泊施設の客室稼働率は、震災前並みか、それをやや上回る水準にまで戻ってきました。旭川地区においては、客室稼働率の面では、震災の影響はほぼなくなったと言えます。ただし、宿泊単価については、6月時点においても、一部で「まだ震災前の水準に及ばない」としている先もあるなど、やや明暗は分かれています。

## 【旭川地区の宿泊施設の客室稼働率の前々年差推移】

%ポイント



現在、道北地域の観光はハイ・シーズンを迎えています。地域や施設により差はありますが、ヒアリング情報では、今夏の観光は全体としてみればまずまずであり、「全体として持ち直し」の基調に変化はありません。

7月の宿泊客数は、旭川市内ホテルでは総じて「まずまず」との評価であり、機材大型化に伴うツアー客等の増加やインバウンド客の戻りの効果を指摘する声が聞かれています。また、富良野・美瑛観光に比較的単価が安い旭川市内ホテルを使うという動きも一部で見られており、日によっては旭川市内の主要ホテルはほぼ満室で、白金方面まで足を延ばさ

ないと宿がない、といったこともあったようです。この間、7月の旭山動物園入園者数は、3か月振りに増加し、これまでの大幅な減少基調に変化がみられているのかどうか注目しています。富良野・美瑛地区でも、「道東自動車道の全面開通効果もあって、ハイ・シーズンの人出は増えている。7月末にかけてラベンダーが満開となり花関係の施設は人出が多かったほか、アップル社の新OSの壁紙に『青い池』が採用されたこともあって、白金方面の白樺道路でも道路が渋滞する程の賑わいとなった」（富良野のホテル）など、客足面では例年の賑わいを取り戻しているようです。一方、層雲峡地区ではインバウンド観光客の回復や道外客の増加という好ましい動きが見られているものの、昨年好調であった道内客が道外や海外に向かっていることもあって大幅に減少するなど、富良野・美瑛地区ほどの賑わいは見られていません。

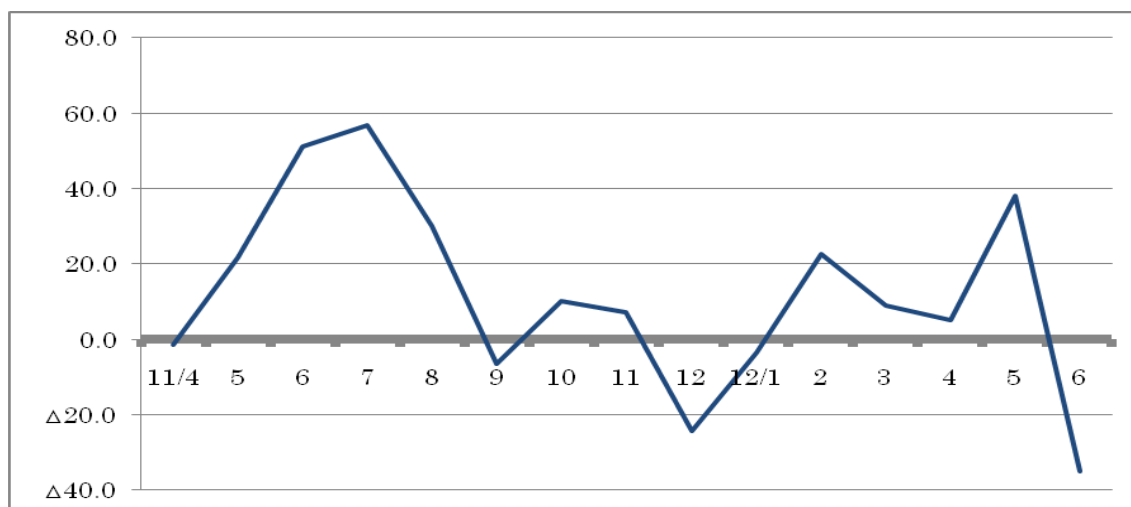
観光客別には、インバウンド観光客は台湾が引続き好調であるほか、タイ・マレーシアもウエイトは低いものの増加しました。また、7月には旭川空港における韓国からの国際チャーター便が復活する（札幌方面に向かう客が少なくありませんが、富良野・美瑛で宿泊する客もみられています）など、持ち直しの動きが続いています。道外客についても、自粛ムードの反動に加え、機材大型化の効果、避暑需要、JR北海道等によるデスティネーションキャンペーン（2012年7～9月）などから緩やかに持ち直しています。震災後いち早く回復した道内客については、旅行間際の予約が定着してきたこともあって、天候に大きく左右される状況が続いていますが、「道外に目が向いている（修学旅行客が今年は復興支援も兼ねた東北やスカイツリーがある東京に向かっています）ほか、円高に伴い海外が人気であることもあって、今一つ盛り上がり欠ける」（旅行代理店）状況にあります（もっとも、「個人消費」という観点から見れば、道外への観光は「サービス消費」となり、個人消費にはプラスです）。

6月の新設住宅着工戸数は、前月大幅に増加した後、大幅に減少しました（△35.1%）。振れはありますが基調判断としては、昨年6～8月頃の住宅エコポイント終了前の駆け込み需要で大きく持ち直した後、その後は「持ち直しの動きに一服感がみられる」との判断に変わりありません。

前月、「かなり振れの大きな統計である」ことを指摘しましたが、前年が極めて高い伸びであった（+51.2%）ことを勘案すれば、6月（△35.1%）がそれ程悪い数字であるという訳ではなく、「連休時期にモデルルームに来訪した顧客の契約がほぼ一巡し、例年並みのペースに戻ったところ」（住宅会社）というのが実態であると判断しています。前年の水準が8月頃まで駆け込み需要から極めて高くなっていますので、前年比の数字を解釈する上では今後も留意が必要です。なお、「消費税率引き上げ（2014年4月に8%、2015年10月に10%）に伴う駆け込み需要の有無」については引続き見方が分かれており、こうした点を含め、注意深くフォローしていきたいと考えています。

【道北地域の新設住宅着工戸数推移】

前年比・%

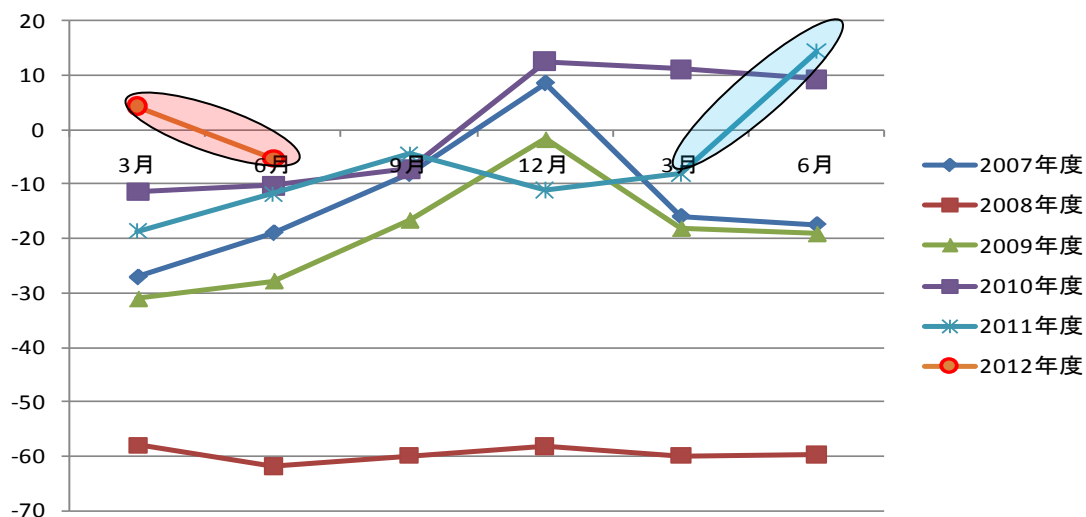


設備投資は、下げ止まっています。

道北地域の「企業短期経済観測調査」（2012年6月調査）における2011年度の設備投資実績は、3月調査比大幅な上方修正（+24.3%）となり、+14.4%と増加に転じました。2012年度設備投資計画は、3月調査比上方修正（+13.0%）となりました。前年比では2011年度実績の大幅な上方修正に伴い、△5.2%と減少しました。今回、2011年度、2012年度とも設備投資は上方修正されており、低水準ながら足もとしっかりした動きとなっています。

【道北地域の短観・設備投資計画の修正状況推移】

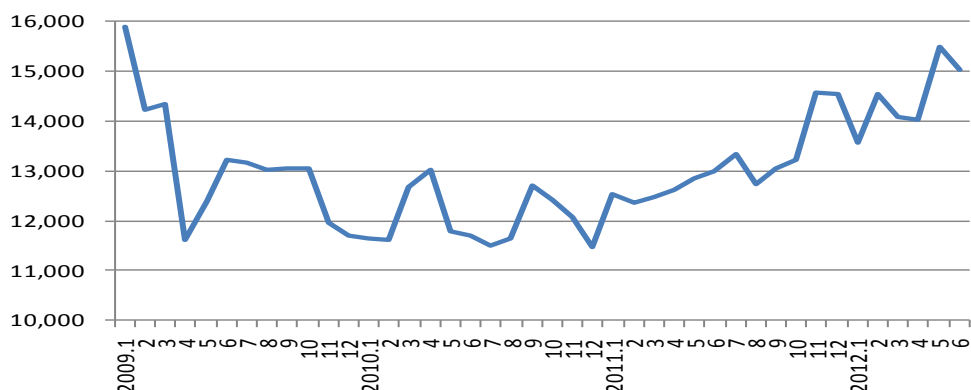
前年比・%



参考までに、設備投資と関連性がある建築確認申請床面積（非居住用。振れを均し、季節要因を調整するために12か月後方移動平均としています）をみると、下図の通り、2011年以降緩やかに持ち直しています。



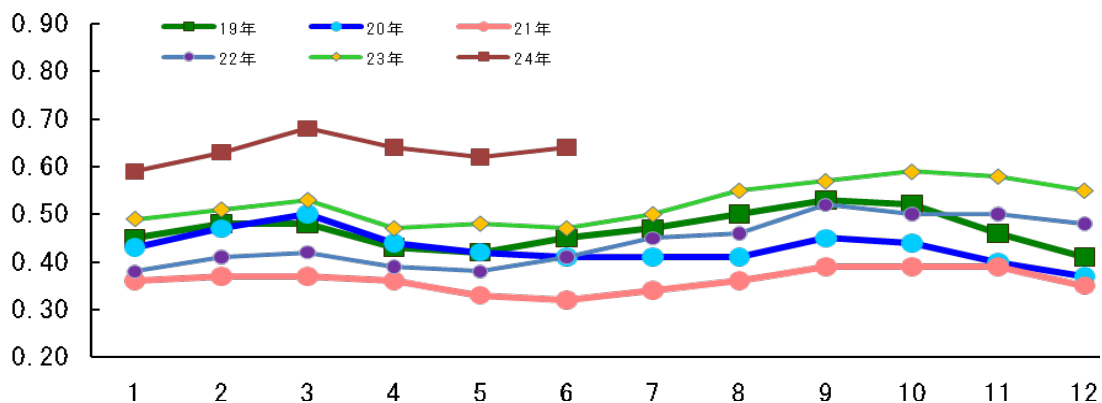
【主要 4 市の非居住用建築確認床面積推移（後方 12 か月移動平均）】  $\text{m}^2$



雇用情勢は、労働需給面で改善の動きが続いています。

労働需給は改善しています。6月の有効求人倍率は、4地区すべてで前年を上回りました。旭川地区の有効求人倍率（下グラフ参照）は、過去に比較して高い水準をキープしています。6月の旭川地区における新規求人は、+12.5%の増加となりました。内訳をみると、宿泊業・飲食サービス業（前年比：+41.3%）、建設業（同+64.4%）、運輸・郵便業（同+54.7%）が高い伸びを示したほか、社会保険・社会福祉・介護（同+13.9%）も増加しています。震災後新規雇用を控えていた宿泊業・飲食サービスでは、観光客の緩やかな持ち直しが続く中、退職者の補充に動いています。また、建設業（現場作業員等）、運輸・郵便業（トラック運転手等）においては復興関連需要や首都圏再開発絡みとみられる道外求人が全体の水準を押し上げています。介護関連の新規求人は引き続き堅調な動きが続いています。このように有効求人倍率は改善の動きが続いていますが、従来から説明している通り、求人と求職との間の構造的なミスマッチを割り引いてみる必要があること（たとえば、介護関連は給与水準が低いこともあって、求職者が少ない等）、所得環境が引き続き厳しいこと（国家公務員や独法等は大幅な給与削減が実施されるほか、夏期賞与は官民ともに減少見込み）を勘案する必要があります。

【旭川地区の有効求人倍率推移】 倍



製造業は、強弱区々の動きです。製材の生産は円高に伴う輸入材との競合や自動車等輸出用梱包材の流通在庫の積み上がりから減少しました。合板の生産は減少しましたが、手間のかかる高付加価値品へのシフトが主因であり、実態的にはほぼフル生産の状況になっています。紙・パルプは、昨年が震災特需（東北工場の被災に伴う肩代わり生産等）で高水準だったものの、稼働率向上のため一部製品を輸出に振り向けたこともあって増加しました。電子部品関連は、需要好調な新製品の作り込み等から引き続き増加しています（合板は5月、その他は6月計数に基づいて記述）。

農作物（8月1日現在）の生育状況は、天候面でまずまずであったこと（7月中は中旬にオホーツク海高気圧の関係で気温が低い日もありましたが、後半にかけて好天の日が多く、日照時間は平年より多め）から、水稻（うるち）の生育は平年並みとなっています。また、畑作においても、豆類、たまねぎ、てん菜、とうもろこしなどの生育は平年並みとなっています。オホーツク総合振興局管内で植付作業が遅れた影響等からやや遅れ気味となっていた馬鈴しょの生育も、平年並みにキャッチ・アップしました。

6月のオホーツク漁業は、すけそう、ほっけ、にしんが増加した一方、単価の高いほたては前月大幅に増加の後、当月は大幅に減少しました。この結果、全体（稚内、網走、紋別、枝幸港の4港合計）では、数量は増加（+12.3%）した一方、金額は減少（△12.3%）しました。ただし、四半期でみると、数量・金額とも増加しました（2012/4～6月数量前年比：+24.2%、金額前年比：+5.9%）。

その他の動きについては、[金融経済概況](#)をご覧ください。

最近、観光調査を兼ねて週末には利尻・礼文島をはじめ、道北地域のさまざまな場所に出掛けています。今年の夏は、富良野・美瑛方面がとりわけ好調のようです。ラベンダー畑が連なる富良野国道はもちろん、「青い池」に通じる白樺街道也大いに賑わっていました。ハイ・シーズンの道北地域は、さすが「観光王国」と呼ばれるだけのことはあります。

ただ、道北地域や留萌には、大変素晴らしいのに、あまり広くは知られていない観光資源がまだたくさん眠っている気がします。奥尻・焼尻島はゆるい雰囲気の中でゆったりとした贅沢な時間を過ごすことができますし、オロロン街道沿いの海岸から望む夕陽は道北独特の刷毛で描いたような雲と相まって、実に見事です。羽幌などで食べる海鮮丼は、内容は大変充実していますが値段は手頃です。また、ロングステイヤーをターゲットにした取り組みも、道北地域ではメニューは用意されているものの、浦河町や釧路市程には有効に活用されていないのではないかと感じています。それだけ取り組みの余地が残されているということであり、観光資源の開発や滞在型観光の促進による地域振興の取り組みが更に強化されることを期待したいと思います。

2012年8月10日

荒木 光二郎